

～辞書アレコレ～ その3

前は英英辞書の具体的なタイトルについてご紹介しました。実際に閲覧室で確認していただけたでしょうか？

さて、今回は英英辞書の利用方法を少し考えてみたいと思います。ここで想定しているのは、初めて利用する方々です。初めて英英辞書を手にしたら、何を調べますか？ 授業等で出て来た知らない単語を調べますか？ もしそうなら、説明文はかなり難しくなると思います。難しい物ばかりが続くと、その内に嫌気が差してしまうでしょう。では、どのようにしたら良いのでしょうか。辞書類の使い方に関する図書は色々出版されているので、それを参考にいただければ良いのですが、ここでは図書館にある多くの辞書を活用して自分にピッタリの辞書を探してみることにしましょう。

まず自分が知っている英単語、それも易しい単語から引いてみるのが良いでしょう。意味が判っている単語を、英語でどのように説明されているかを読むと、理解が深まると思います。そして慣れてきたら、少しずつ難しい単語へと移って行きます。この際に、複数の辞書を見較べてみてはいかがでしょうか。辞書は解説文、図表の有無、大きさ（ボリューム）などにより使い勝手が異なります。ですから自分の「好みの1冊」を見つけることが大切です。このためには図書館で実際に手に取って、じっくりと選んでみることをおすすめします。

では、具体的な例を見てみるために、ある単語の解説文を引用してみます。

Collins Cobuild advanced learner's English dictionary 4th ed.(423-Coll) では

"A is the part of a plant which is often brightly coloured, grows at the end of a stem, and only survives for a short time"と説明されています。（ は説明されている単語）

一方、 *Longman dictionary of contemporary English* 4th ed. (423-Long)では、

"a coloured or white part that a plant or tree produces before fruit or seeds"となっています。

使われている単語はどれも知っているのですが、随分説明方法が異なっています。この説明文が付されている単語は何かお判りでしょうか？ 答えの"flower"が出て来ましたでしょうか。 と は両方ともほぼ同じ大きさですが、大きさが異なれば説明文はもっと違った物になるでしょう。

辞書を基本的に家に置いておくのか、それとも持ち運びを意識するのかという点では、大きさも大切な要素です。それ以外の辞書を構成する要素の違いにより使い勝手が微妙に異なるので、一定期間使い比べて見てください。誰の目も気にすることなく品定め出来るのが図書館なのです。蛇足ながら、英英辞書にある程度慣れてきたら、上述のように説明文から英単語を当ててみるというのも、ゲーム感覚で楽しめると思います。

ふじい たつや（司書・図書館係長）